



# Sun Fire™ T2000 サーバー ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-4514-14  
2007 年 3 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Sun VTS, Solaris JumpStart は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire T2000 Server Product Notes  
Part No: 819-2544-20  
Revision A



# 目次

---

1. Sun Fire T2000 サーバーに関する重要な情報 1
  - 使用しているサーバーに関する注意事項の確認 2
    - ▼ パーツ番号および使用しているサーバーに適用される注意事項を確認する 2
  - すべての Sun Fire T2000 サーバーに関する情報 3
    - Sun Fire T2000 サーバーの PCI-E スロット内の HBA カードが、OBP または起動時に認識されない (CR 6479274、6513604、6513621、6514875) 3
    - Sun Fire T2000 サーバーへの Sun 4G バイト DIMM の提供およびサポートの開始 4
    - システムファームウェア 6.3.0 で提供される新機能 4
    - ネットワーキングフレームワークの変更準備 5
    - /etc/system ファイルの必須エントリ 6
      - ▼ /etc/system ファイルの必須エントリを確認および作成する 6
    - Sun Explorer には Tx000 オプションが必要 7
    - SunVTS CPU テストを実行するとウォッチドッグタイムアウトが発生して停止する (CR 6498483) 7
    - T2000 の POST で検出された修正可能なメモリーエラーが誤解を招く場合がある (CR 6479408) 7
    - 誤ったエラーメッセージの認識 7
      - 起動時の誤ったメッセージ 8

- ネットワークからの起動後にディスクからの起動を行うと障害メッセージが表示される (CR 6424812) 9
- 修復後に誤ったメッセージが表示される (CR 6369961) 10
- Solaris OS の JumpStart インストールの実行後に誤った障害メッセージが表示される 10
  - ▼ JumpStart インストールの実行後にシステムを設定する 11
- マニュアルの正誤情報 13
  - ALOM CMT ガイドでの時刻の同期に関する内容の誤り 13
  - ローカライズ版の『Sun Fire T2000 サーバー設置マニュアル』の表記上の誤り 13
- 2. パーツ番号 501-7501 のサーバーに関する注意事項 15
  - サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 16
  - 必須パッチ 16
  - 既知の問題 17
    - 一般的な機能の問題 17
    - 特定の問題と回避方法 19
- 3. パーツ番号 501-6843 のサーバーに関する注意事項 23
  - サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 24
    - 最新バージョン 24
    - 最小バージョン 24
  - 必須パッチ 25
    - ▼ 起動ディスクにパッチを適用する 26
  - 既知の問題 27
    - 一般的な機能の問題 27
    - 特定の問題と回避方法 29
  - ハードウェア RAID のサポート 36

# 第1章

---

## Sun Fire T2000 サーバーに関する重要な情報

---

本書では、Sun Fire™ T2000 サーバーに関する重要な最新情報について説明します。

詳細は、次のセクションを参照してください。

- 2 ページの「使用しているサーバーに関する注意事項の確認」
- 3 ページの「すべての Sun Fire T2000 サーバーに関する情報」

Sun Fire T2000 サーバーの設置、管理、および使用に関する手順は、Sun Fire T2000 サーバーのマニュアルセットに記載されています。次の Web サイトから、マニュアルセット全体をダウンロードして入手できます。

<http://www.sun.com/documentation>

本書で説明する情報は、Sun Fire T2000 のマニュアルセットの情報よりも優先されます。

---

**注** – 一部のサーバー出力で、「Sun Fire T200」という文字列が表示されますが、これは「Sun Fire T2000」と表示されるべきものです。詳細は、変更要求 (CR) 6331169 を参照してください。

---

本書には、一部の最新の情報が記載されていない場合があります。最新情報については、本書の英語版である『Sun Fire T2000 Server Product Notes』(819-2544) を参照してください。

---

# 使用しているサーバーに関する注意事項の確認

Sun Fire T2000 サーバーの製品情報は、次のように分類して記載されています。

- 3 ページの「すべての Sun Fire T2000 サーバーに関する情報」(この章)
- 15 ページの「パーツ番号 501-7501 のサーバーに関する注意事項」(第 2 章)
- 23 ページの「パーツ番号 501-6843 のサーバーに関する注意事項」(第 3 章)

まず、この章の一般的な情報を確認し、次に、使用しているサーバーのパーツ番号に基づいて、そのサーバーに関連する章の注意事項を参照します。

## ▼ パーツ番号および使用しているサーバーに適用される注意事項を確認する

1. ALOM CMT システムコントローラプロンプト (`sc>`) を表示します。  
Sun Fire T2000 コンソールで、`#.` (ハッシュ記号とピリオド) を入力します。
2. 次に示すように、`showfru` コマンドを実行します。

```
sc> showfru -s MB
SEGMENT: SD
/ManR
/ManR/UNIX_Timestamp32:      TUE APR 24 18:57:57 2006
/ManR/Description:          ASSY,Sun-Fire-T2000,CPU Board
/ManR/Manufacture Location:  Sriracha,Chonburi,Thailand
/ManR/Sun Part No:          Sun_Partnumber
/ManR/Sun Serial No:        PC1234
/ManR/Vendor:               Celestica
/ManR/Initial HW Dash Level: 01
/ManR/Initial HW Rev Level: 02
/ManR/Shortname:            T2000_MB
/SpecPartNo:                885-0689-01
sc>
```

- 手順 2 で確認した *Sun\_Partnumber* と表 1-1 を参照して、使用しているサーバーに適用される注意事項を確認します。

表 1-1 Sun Fire T2000 の Sun パーツ番号

Sun_Partnumber	参照する注意事項
5016843	23 ページの「パーツ番号 501-6843 のサーバーに関する注意事項」
5017501	15 ページの「パーツ番号 501-7501 のサーバーに関する注意事項」

## すべての Sun Fire T2000 サーバーに関する情報

この章の以降のセクションでは、すべての Sun Fire T2000 サーバーに適用される情報を示します。

### Sun Fire T2000 サーバーの PCI-E スロット内の HBA カードが、OBP または起動時に認識されない (CR 6479274、6513604、6513621、6514875)

レーン幅が X1、X2、または X4 の PCI-E カードを PCI-E スロットに取り付けている場合、Sun Fire T2000 サーバーではカードの認識に関する障害がときどき発生する可能性があります (この問題は X8 PCI-E カードには影響しない)。これらの障害は一時的に発生するもので、デバイスのトレーニング中に発生します。

通常、PCI-E デバイスは OpenBoot ファームウェアで次のように認識されます。

```
PCI-E slot 0: /pci@780/pci@0/pci@8/SUNW,device_name@0
PCI-E slot 1: /pci@7c0/pci@0/pci@8/SUNW,device_name@0
PCI-E slot 2: /pci@7c0/pci@0/pci@9/SUNW,device_name@0
```

これらの障害が発生した場合、OpenBoot ファームウェアは一部の PCI-E デバイスをデバイスツリーに表示しません。デバイスツリーは ok プロンプトで `show-devs` コマンドを使用して表示します。Solaris OS の起動後は、これらの PCI-E カードは `prtdiag -v` コマンドの出力にも表示されなくなります。システムで、次に示す一般的な FMA メッセージも報告される場合があります。

SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L

**回避方法:** 次に示すパッチをインストールしていない場合は、すべてのデバイスを認識できるまで繰り返しシステムを再起動します。通常は 1 回か 2 回の再起動が必要です。

この問題は、次のプラットフォームでは解決されています。

- version 6.1.13 より前のシステムファームウェアが動作し、パッチ 122430-06 以降がインストールされている Sun Fire T2000 システム。
- version 6.3.2 より前のシステムファームウェアが動作し、パッチ 124750-03 以降がインストールされている Sun Fire T2000 システム。

---

**注** – ファームウェアパッチは、1 つ以上の PCI-E スロットに PCI-E カードが取り付けられている Sun Fire T2000 システムにそれぞれインストールしてください。

---

## Sun Fire T2000 サーバーへの Sun 4G バイト DIMM の提供およびサポートの開始

DIMM の取り付け手順については、『Sun Fire T2000 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。

サービスマニュアルでは、4G バイト DIMM について説明していない可能性があります。サービスマニュアルで説明する DIMM の取り付け手順は、サポートされるすべての DIMM (512M バイト、1G バイト、2G バイト、および 4G バイト) に適用されます。

## システムファームウェア 6.3.0 で提供される新機能

システムファームウェア 6.3.0 には、ALOM CMT v1.3 が含まれます。ALOM CMT v1.3 には、次に示すいくつかの新機能が備わっています。

- POST の `diag_level` の新しいデフォルト値 (min)。
- `break` コマンドへの新しいオプションの追加。-D オプションは、コアダンプを強制する場合に使用します。
- 新しい `sys_eventlevel` 変数。この変数は、ALOM CMT からホストサーバーに送信する ALOM イベントのレベルを指定する場合に使用します。
- `sys_autorestart` 変数の新しいオプション (`reset`)。このオプションは、ALOM CMT が Solaris ウォッチドッグタイマーの時間切れをどのように処理するかを指定する場合に使用します (デフォルト値: `reset`)。



- 暗号化鍵を表示または生成するために `ssh-keygen` コマンドを使用する場合は、SSH 暗号化鍵のタイプ (`rsa` または `dsa`) を指定する必要があります。

ALOM CMT v1.3 の新機能の詳細は、『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド』(820-0669-10) を参照してください。

## ネットワーキングフレームワークの変更準備

今後のソフトウェアリリースでネットワーキングフレームワークが変更されると、システム管理者または開発者にとっては、`ipge` インタフェースの参照の更新が必要になる場合があります。この変更に合わせて、ネットワーキングフレームワークの名前に対するすべての参照の場所を書きとめておいてください。たとえば、システム構成ファイルで `ipge` インタフェースの名前を参照している場合は、すぐにその場所を書きとめてください。または、このインタフェースを使用するように明示的に構成されているアプリケーションの数を制限するように選択することもできます。

## /etc/system ファイルの必須エントリ

このセクションでは、/etc/system ファイルの必須エントリについて説明します。必須エントリは、サーバーの最適な機能性を確保するためにこのファイルに指定されている必要があります。これらのエントリによって、CR 6274126\* および 6344888 が解決します (第 3 章の表 3-3 を参照)。

/etc/system ファイルに次のエントリを指定します。

```
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x1
```

パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーを使用していて、このサーバーで Solaris™ 10 3/05 HW2 オペレーティングシステムが動作している場合には、次のエントリも指定します。

```
set segkmem_lpsize=0x400000
```

## ▼ /etc/system ファイルの必須エントリを確認および作成する

この手順は、次の場合に実行してください。

- サーバーを配備する前に、エントリが存在することを確認する。
- Solaris OS をインストールまたは更新したあとにエントリを作成する。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. /etc/system ファイルに必須の行が存在するかどうかを確認します。

```
# more /etc/system
*ident  "@(#)system      1.18 05/06/27 SMI" /* SVR4 1.5 */
*
* SYSTEM SPECIFICATION FILE
.
.
.
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x1
set segkmem_lpsize=0x400000      <-- 脚注を参照*
.
```

\* パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーで Solaris 10 3/05 HW2 OS が動作している場合にのみ必要。

3. ファイルに必須エントリが存在しない場合は、これを追加します。

エディタを使用して /etc/system ファイルを編集し、両方の行を追加してください。

サーバーを再起動します。

## Sun Explorer には Tx000 オプションが必要

Sun Explorer 5.2 以降を実行する際は、Tx000 オプションを指定して、Sun Fire T2000 サーバー上の ALOM CMT コマンドからデータを収集してください。このスクリプトは、デフォルトでは実行されません。次に、このスクリプトの実行方法の例を示します。

```
# /opt/SUNWexplo/bin/explorer -w default,Tx000
```

詳細は、障害追跡ドキュメント『Using Sun Explorer on the Tx000 Series Systems』を参照してください。このドキュメントは、次の SunSolve Web サイトで入手できます。

<http://www.sun.com/sunsolve>

## SunVTS CPU テストを実行するとウォッチドッグタイムアウトが発生して停止する (CR 6498483)

Coolthreads サーバーで SunVTS CPU テストを実行中に、Solaris のウォッチドッグのタイムアウトが発生し、システムが停止しました。

**回避方法:** SunVTS を実行する間は、ALOM CMT の `sys_autorestart` 変数を `none` に設定してください。この設定により、ALOM CMT は警告メッセージを表示しますが、サーバーをリセットすることはありません。

## T2000 の POST で検出された修正可能なメモリーエラーが誤解を招く場合がある (CR 6479408)

サポートされていないメモリー構成に関する POST のエラーメッセージが、誤解を招く場合があります。ランク 0 (ゼロ) にメモリーがすべて取り付けられている場合は、次のメッセージを無視しても問題ありません。

```
ERROR: Using unsupported memory configuration
```

## 誤ったエラーメッセージの認識

このリリースの Sun Fire T2000 システムで提供されている Solaris の予測的自己修復 (PSH) ソフトウェアの実装によって、ほとんどのシステムでいくつかの誤ったエラーメッセージが表示されます。

## 起動時の誤ったメッセージ

通常、これらのメッセージはシステムの起動時に 2 回または 3 回発生します。これらのエラーは記録されるため、次の例に示すように `fmdump` コマンドを使用して参照できます。

```
# fmdump -ev
```

TIME	CLASS	ENA
Nov 04 10:56:06.6096	ereport.io.fire.pec.rto	0x00002d1a86f87002
Nov 04 10:56:06.6100	ereport.io.fire.pec.rto	0x00002d1a9d2f2002
Nov 04 10:56:06.6100	ereport.io.fire.pec.rnr	0x00002d1a9d2f2002

これらのエラーは障害の発生したデバイスを示すものではありません。表示されたメッセージがこの例と一致していることを確認できれば、そのメッセージは無視できます。異なるエラーメッセージが表示されている場合は、サポートについて購入先に問い合わせてください。

## ネットワークからの起動後にディスクからの起動を行うと障害メッセージが表示される (CR 6424812)

ネットワークからの起動 (boot net) を行なったあとで、ハードドライブからの起動 (boot disk) を行なった場合、使用しているサーバーでシステムファームウェアバージョン 6.1.9 が動作していると、PSH 障害メッセージが表示されることがあります。

このメッセージは無視してください。『Sun Fire T2000 サーバーサービスマニュアル』(819-4540) に記載されている手順を実行すると、PSH 障害ログからこのメッセージをクリアできます。

起動時に表示される障害メッセージの例:

```
SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-5A, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY:
Critical
EVENT-TIME: Fri May 12 09:37:06 EDT 2006
PLATFORM: SUNW,Sun-Fire-T200, CSN: -, HOSTNAME: wgs94-181
SOURCE: eft, REV: 1.13
EVENT-ID: c788de32-a378-cc46-ad4b-97ce105fb175
DESC:
A problem was detected in the PCI-Express subsystem software.
Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-5A for more information.
AUTO-RESPONSE: This fault does not have an automated response agent
and thus requires interaction
from the user and/or Sun Services.
IMPACT: Loss of services provided by the device instances
associated with
this problem
REC-ACTION: Ensure latest driver and patch are installed. Use
fmdump -v -u <EVENT_ID> to identify the module/package, or
contact Sun for support.
```

fmdump コマンドを使用してメッセージを表示する例:

```
# fmdump -v -u 755528c5-0bcd-4810-fd86-a34baead30c8
TIME                UUID                                SUNW-MSG-ID
May 11 17:07:10.3877 755528c5-0bcd-4810-fd86-a34baead30c8 SUN4-
8000-5A
    50% defect.io.fire.pciex.driver
        FRU: pkg:///SUNWcakr
        rsrc: mod:///mod-name=px/mod-id=25

    50% defect.io.fire.pciex.driver
        FRU: pkg:///SUNWipged
        rsrc: mod:///mod-name=ipge/mod-id=119
```

サービスコントローラからシステムファームウェアバージョンを表示する例:

```
sc> showhost version
System Firmware 6.1.9 Sun Fire[TM] T2000 2006/03/27 08:05

Host flash versions:
  Reset V1.1.4
  Hypervisor 1.1.1 2006/02/24 06:38
  OBP 4.20.3 2006/03/21 14:46
  Sun Fire[TM] T2000 POST 4.20.2 2006/03/02 19:31
sc>
```

## 修復後に誤ったメッセージが表示される (CR 6369961)

Solaris PSH 機能は、マザーボードおよび DIMM が交換されたことを自動的に検出します。しかし、システムの起動時に誤った障害メッセージが表示され、実際には解決されている問題が、まだ残っているとの誤解を与えることがあります。この状況を解決するには、Sun Fire T2000 の必須パッチ 119578-2 をインストールする必要があります。

## Solaris OS の JumpStart インストールの実行後に誤った障害メッセージが表示される

Sun Fire T2000 サーバーで Solaris JumpStart™ インストールを実行した場合、起動時にサーバーが誤った PSH 障害メッセージを表示します。この状況を解決するには、Sun Fire T2000 の必須パッチをインストールし、`/etc/system` ファイルを変更してください。さらに、PSH および ALOM CMT の障害ログをクリアーして、誤ったメッセージが再度報告されないようにすることをお勧めします。これらの手順は、11 ページの「JumpStart インストールの実行後にシステムを設定する」で説明します。

起動時の誤った障害メッセージの例:

```
SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-0Y, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical
EVENT-TIME: Fri Jan 27 22:17:36 GMT 2006
PLATFORM: SUNW,Sun-Fire-T200, CSN: -, HOSTNAME: xx
SOURCE: eft, REV: 1.13
EVENT-ID: d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
DESC: A problem was detected in the PCI-Express subsystem.
Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-0Y for more information.
AUTO-RESPONSE: One or more device instances may be disabled
IMPACT: Loss of services provided by the device instances
associated with this fault
REC-ACTION: Schedule a repair procedure to replace the affected
device. Use fmdump -v -u EVENT_ID to identify the device or contact
Sun for support.
```

fmdump コマンドを使用してメッセージを表示する例:

```
# fmdump -v -u d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
TIME UUID SUNW-MSG-ID
Jan 27 22:01:58.8757 d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3 SUN4-
8000-0Y 100% fault.io.fire.asic
FRU: hc://product-id=SUNW,Sun-Fire-T200/component=IOBD
rsrc: hc:///ioboard=0/hostbridge=0/pciexrc=0
Jan 27 22:17:36.5980 d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3 SUN4-
8000-0Y
100% fault.io.fire.asic
FRU: hc://product-id=SUNW,Sun-Fire-T200/component=IOBD
rsrc: hc:///ioboard=0/hostbridge=0/pciexrc=0
```

## ▼ JumpStart インストールの実行後にシステムを設定する

この手順では、誤った障害メッセージが報告されないように、JumpStart インストール後に Sun Fire T2000 サーバーを設定する方法について説明します。

1. サーバーに必須パッチをインストールします。
2. /etc/system ファイルを更新します。  
6 ページの「/etc/system ファイルの必須エントリ」を参照してください。
3. fmadm faulty コマンドを使用して、誤った障害の UUID の一覧を表示します。

```
# fmadm faulty
```

4. 前述の手順で一覧に表示された各障害をクリアします。

```
# fmadm repair d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
```

5. 次の例のように入力して、永続ログをクリアします。

```
# cd /var/fm/fmd  
# rm e* f* c*/eft/* r*/*
```

6. 次のように入力して、Solaris PSH モジュールをリセットします。

```
# fmadm reset cpumem-diagnosis  
# fmadm reset cpumem-retire  
# fmadm reset eft  
# fmadm reset io-retire
```

7. ALOM CMT プロンプトで障害をリセットします。

- a. ALOM CMT の `sc>` プロンプトにアクセスします。

手順については、『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド』を参照してください。

- b. `showfaults -v` コマンドを実行して、障害の UUID を参照します。

```
sc> showfaults -v  
ID Time          FRU                               Fault  
0 Jan 27 22:01 hc://product-id=SUNW,Sun-Fire-T200/component=  
IOBD Host detected fault, MSGID:  
SUN4-8000-0Y UUID: d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
```

- c. `showfaults` の出力に表示された UUID を指定して、`clearfault` コマンドを実行します。

```
sc> clearfault d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3  
Clearing fault from all indicted FRUs...  
Fault cleared.
```

8. 引き続き障害が報告される場合は、サーバーのコンポーネントに障害が発生している可能性があります。診断手順については、『Sun Fire T2000 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。



## マニュアルの正誤情報

### ALOM CMT ガイドでの日付の同期に関する記載内容の誤り

発行済の ALOM CMT ガイドでの `showdate` コマンドの記載内容に誤りがあります。誤っている内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されますが、ALOM CMT の時刻は現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。

正しい内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。

### ローカライズ版の『Sun Fire T2000 サーバー設置マニュアル』の表記上の誤り

ローカライズ版の『Sun Fire T2000 サーバー設置マニュアル』には、表記上の誤りがある可能性があります。この誤りは、英語版のマニュアルにはありません。

この誤りは、第 3 章にある「Solaris オペレーティングシステムを起動する」というセクションの、手順 2 の例の中にあります。

次に、誤った例を示します。

```
ok boot / pci@7c0/pci@0/pci@2/pci@0,2/LSILogic,sas@4/disk@0,0p
```

最初の / のあとに空白がありますが、ここには空白を入れません。

次に、正しい例を示します。

```
ok boot /pci@7c0/pci@0/pci@2/pci@0,2/LSILogic,sas@4/disk@0,0p
```



## 第2章

---

# パーツ番号 501-7501 のサーバーに関する注意事項

---

この章では、パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーに適用される重要な情報について説明します。

使用しているサーバーのパーツ番号を確認する方法については、2 ページの「パーツ番号および使用しているサーバーに適用される注意事項を確認する」を参照してください。

詳細は、次のセクションを参照してください。

- 16 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」
- 16 ページの「必須パッチ」
- 17 ページの「既知の問題」

---

# サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーでは、次に示すバージョン以降のファームウェアおよびソフトウェアがサポートされています。

- Solaris 10 1/06 オペレーティングシステム (OS)
- Java™ Enterprise Systems (Java ES) 2005Q4 ソフトウェア
- Sun システムファームウェア 6.1 (Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT 1.1 ソフトウェアを含む)
- SunVTS 6.1 ソフトウェア
- Sun™ Management Center 3.6 ソフトウェア

---

## 必須パッチ

次の表に、必須パッチの一覧を示します。

表 2-1 パーツ番号 501-7501 のサーバーの必須パッチ

Solaris OS	パッチ ID	説明
Solaris 10 1/06	119578-22 以降	
	111833-24 以降	
	119850-14 以降	ハードウェア RAID をサポートするために必要です。パーツ番号 501-7501 のサーバーには、プリインストールされた Solaris OS とともに、このパッチがすでにインストールされています。ただし、以前の Solaris OS を再インストールした場合で、ハードウェア RAID 機能を使用する予定があれば、このパッチを入手してインストールしてください。
	121130-01 以降	Solaris 10 1/06 OS または以前のリリースの Solaris でハードウェア RAID をサポートする場合にのみ必要です。
Solaris 10 6/06	111833-24 以降	
Solaris 10 11/06	なし	

使用しているサーバーにオプションカードが追加されている場合は、それぞれのカードに関するマニュアルおよび README ファイルを参照して、追加のパッチをインストールする必要があるかどうかを確認してください。

パッチは、<http://www.sun.com/sunsolve> から入手できます。

---

**注** – 購入先に問い合わせサポートを受ける前に、必須パッチがサーバーにインストールされていることを確認してください。これらのパッチのインストールに加えて、SunSolve Web サイトを定期的にチェックして、利用可能な新しいパッチがないかどうかを確認することをお勧めします。

---

## 既知の問題

このセクションでは、パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーに存在する既知の問題について説明します。

### 一般的な機能の問題

表 2-2 に、Sun Fire T2000 サーバーのこのリリースの時点で利用できない機能を示します。

表 2-2 パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーの機能に関する問題

機能	コメント
Solaris™ 予測的自己修復 (PSH) 機能	Solaris PSH の実装は、このリリースの製品では完全には実現されません。メッセージ ID FMD-8000-OW の PSH メッセージが発生した場合は、次の Web サイトの説明を参照してください。 <a href="http://www.sun.com/msg/FMD-8000-OW">http://www.sun.com/msg/FMD-8000-OW</a>
Sun Explorer ユーティリティ	このサーバーは、Sun™ Explorer 5.2 データ収集ユーティリティではサポートされますが、これより前のリリースのユーティリティではサポートされません。プリインストールされた Java ES パッケージから Sun™ Cluster または Sun Net Connect ソフトウェアをインストールすると、前のバージョンのユーティリティがシステムに自動的にインストールされます。Java ES ソフトウェアのいずれかをインストールしたあとに、次のように入力して、使用しているシステムに前のバージョンの Sun Explorer 製品がインストールされていないかどうかを確認してください。 <b># pkginfo -l SUNWexplo</b> 前のバージョンが存在する場合は、それをアンインストールして version 5.2 以降をインストールしてください。Sun Explorer 5.2 をダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。 <a href="http://www.sun.com/sunsolve">http://www.sun.com/sunsolve</a>

## 特定の問題と回避方法

表 2-3 に、既知の問題とそれに割り当てられている変更要求 ID (CR ID) を示します。変更要求 ID は以前バグ ID と呼ばれていました。この表には、これらの問題に対して実行可能な回避方法も示します。

これらの CR の詳細は、SunSolve Web サイトを参照してください。

表 2-3 パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題

CR ID	説明	回避方法
6310384	サーバーにキーボードが取り付けられていない場合でも、SunVTS USB キーボードテスト (usbtest) が、キーボードが存在すると報告する。	usbtest を実行しないでください。
6312364	ALOM CMT の console コマンドを使用してホストにアクセスすると、コンソールの応答が遅くなる場合がある。	最適な応答性を確保するには、ホストが OS の起動を完了した直後にホストのネットワークインタフェースを介してホストにアクセスしてください。
6314590	ALOM CMT の break および go コマンドを実行すると、システムがハングアップする場合があります。	コンソールがハングアップした場合は、システムをリセットしてください。
6315238	AC 電源を入れ直すと、次のメッセージが誤って表示される。 Preceding SC reset due to watchdog	このメッセージは無視してください。
6317382	ok プロンプトで、認識できないコマンドまたは単語を入力すると、システムによって次のエラーが誤って返される。 ERROR: Last Trap また、サーバーがハングアップする場合もある。	この誤ったエラーメッセージは無視してください。サーバーがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバーをリセットしてください。
6318208	POST リセット後など、システムをリセットするたびに、次のメッセージが表示される場合があります。Host system has shut down	このメッセージは無視してください。システムは問題なくリセットされ、OBP の ok プロンプトが表示されます。
6318235	PCI-X スロットを個別に使用不可にできない。	PCIX0 または PCIX1 を使用不可にする必要がある場合は、必ず両方のスロットを使用不可にしてください。
6325271	コンソール履歴の boot ログと run ログが同じになる。	現時点では、この問題に関する回避方法はありません。
6331169	OBP および Solaris のバナーに、Sun Fire T2000 という製品名が表示される。	正しい製品名は Sun Fire T2000 と読み替えてください。この問題はシステムには影響ありません。
6336040	障害が発生した DIMM が asr データベースからクリアされたあとで、ALOM CMT が適切に再起動しない場合があり、次のエラーメッセージが返される。 No valid MEMORY configuration	clearasrdb コマンドの実行後に、10 秒経過してから resetsc コマンドを実行してください。DIMM に関連する障害をクリアする方法については、『Sun Fire T2000 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。

表 2-3 パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6338365	Sun Net Connect 3.2.2 ソフトウェアが、Sun Fire T2000 サーバーでの環境警告を監視しない。	環境エラーが発生したことを示す通知を受け取るには、ALOM CMT の <code>mgt_mailalert</code> 機能を使用して、イベントの発生時に ALOM CMT から電子メールが送信されるように設定してください。 サーバーの環境状態が正常であるかどうかを確認するには、ALOM CMT にログオンして <code>showfaults</code> コマンドを実行してください。 サーバーで発生したすべてのイベントの履歴を参照するには、ALOM CMT にログオンして <code>showlogs</code> コマンドを実行してください。
6338962	<code>sync</code> コマンドを使用したとき、システムがパニック状態になりハングアップする場合があります。	サーバーがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバーをリセットしてください。
6341045	サーバーがトラップハンドラを実行している間に CPU またはメモリーに障害が発生すると、システムは CPU またはメモリーの障害メッセージを返す代わりに、誤ったトラップを使用してパニック状態になる場合があります。このような場合、メモリーの消し込みは実行されません。	サーバーをリセットし、 <code>showfaults</code> コマンドを使用して、障害の可能性がないかサーバーを確認してください。
6343294	Solaris PSH エラーが検出され報告されたとき、正しいメッセージに加えて、次の誤ったメッセージが報告される場合があります。 <code>msg = warning: bad proto frame implies corrupt/lost msg(s)</code>	この誤ったメッセージは無視してください。
6342192	サーバーが、ALOM CMT シリアル管理ポートでの着呼に応答しない。	モデムを ALOM CMT シリアルポートに接続しないでください。
6347456	ECC エラー監視 ( <code>errmon</code> ) オプションが使用可能に設定されていると、SunVTS メモリーテストで、まれに、次のような警告メッセージがログに記録される場合があります。 <code>WARNING: software error encountered while processing /ar/fm/fmd/errlog Additional-Information: end-offile reached</code>	<code>errmon</code> オプションを使用可能にしないでください。 <code>errmon</code> オプションは、デフォルトで使用不可になっています。
6344888	システムで、次のメッセージ ID が付いた、誤った障害メッセージが生成される場合があります。 SUN4-8000-ER SUN4-8000-OY SUN4-8000-75 SUN4-8000-D4	<code>/etc/system</code> ファイルに次の行が存在することを確認してください。 <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x1</code> 6 ページの「 <code>/etc/system</code> ファイルの必須エントリ」を参照してください。

表 2-3 パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6356620	ディスクをシャーシから取り外してシステムを再起動すると、ハードウェア RAID ボリュームの状態を提示する <code>raidctl</code> コマンドが、取り外されたディスクのターゲット ID を誤って報告する場合がある。	ディスクを再度取り付けると、 <code>raidctl</code> コマンドが正しいターゲット ID を報告するようになります。
6368136	ALOM の <code>showlogs -p p</code> コマンドが多数のデータを表示して、ALOM CLI の動作を遅くする場合がある。	永続ログを表示するには、このコマンドではなく、次のコマンドを使用してください。 <code>showlogs -e x</code> ここで、 <code>x</code> には、表示する最新ログエントリの行数を指定します。
6362690	<code>dtlbttest</code> の実行中に SunVTS テストが停止されると、テストが失敗して次のエラーを表示する場合がある。 No CPUs to test	SunVTS 6.1 PS1 にアップグレードしてください。 SunVTS のこのリリースは、次から入手できます。 <a href="http://www.sun.com/oem/products/vts">http://www.sun.com/oem/products/vts</a>
6368944	<code>ok</code> プロンプトで、114 文字以下のテキストしか入力できない。	<code>ok</code> プロンプトでは、114 文字を超えるテキストを入力しないでください。
6369961	障害が修復されたあとも、起動時に、システム障害メッセージおよび ALOM CMT アラートが引き続き生成される。	この問題は、119578-22 以降の必須パッチをインストールすると解決されます。16 ページの「必須パッチ」を参照してください。 このパッチがインストールされていない場合は、『Sun Fire T2000 サーバーサービスマニュアル』に記載されている手順を実行してシステム障害メッセージをクリアできます。
6380987	シャーシの背面にあるアースピンにアース線を接続すると、このアース接続を外さないかぎり背面の送風機を交換できなくなる。	背面の送風機を交換する必要がある、アース線が接続されている場合には、アース線を外して送風機を取り換えてください。
6381064	Sun Type-7 キーボードが正面の USB ポートのいずれかに接続されていると、システムが起動できない。	Type-7 キーボードを、正面の USB ポートに接続しないでください。代わりに、別の種類のキーボードを使用するか、または背面の USB ポートを使用してください。
6383666	USB サポートは、Entire Distribution +OEM Solaris クラスタをインストールした場合のみ提供される。	オンボード USB インタフェースの使用を予定している場合は、Solaris OS をインストールする際に、必ず Entire Distribution +OEM (SUNWCXall) クラスタを選択してください。
6391218	<code>probe-scsi</code> コマンドが、オンボードディスクコントローラに接続されたデバイスをプローブしない。	このコマンドではなく、 <code>probe-scsi-all</code> コマンドを使用してください。



表 2-3 パーツ番号 501-7501 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6400117	DVD ドライブが、x24 の速度での書き込み操作を実行しない。	<p>cdwr コマンドを使用して DVD ドライブに書き込みを行う際、次のコマンドは使用しないでください。</p> <pre>cdwr -p24</pre> <p>代わりに、次のいずれかの速度を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• cdwr -p16</li> <li>• cdwr -p10</li> </ul>
6405137	<p>システムのホスト電源の投入またはリセットを行なった際に、ときどき、次のメッセージを表示してシステムの電源が切断される。</p> <pre>HV Abort: JBI Error (22) - PowerDown</pre>	このメッセージは無視してください。サーバーがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバーをリセットしてください。
6408619	ネットワーク上の Linux の起動用 TFTP サーバーからサーバーを起動できない。	Solaris OS の起動用 TFTP サーバーを使用してください。
6410532	ALOM の disablecomponent コマンドを使用しても、Ethernet ポートが使用不可にならない。	disablecomponent コマンドを使用して、Ethernet ポートを使用不可にしないでください。
6424812	<p>ネットワークからの起動後にディスクからの起動を行うと、次の PSH 障害メッセージが表示される場合がある。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-5A, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Critical</pre>	9 ページの「ネットワークからの起動後にディスクからの起動を行うと障害メッセージが表示される (CR 6424812)」を参照してください。
なし	X オプションおよび交換可能なハードドライブが、電子的なディスクラベルを持たない場合がある。	<p>サーバーでハードドライブの交換または追加を行う予定がある場合は、そのドライブが電子的なディスクラベルを持たない場合があるため、Format ユーティリティを実行してドライブにラベルを付けます。ドライブにラベルを付ける手順については、『Labeling Unlabeled Hard Drives』(Part No. 819-3805) というタイトルのマニュアルに記載されています。このマニュアルは、Sun Fire T2000 サーバーのマニュアルとともに <a href="http://www.sun.com/documentation">http://www.sun.com/documentation</a> に掲載されています。</p>



## 第3章

---

# パーツ番号 501-6843 のサーバーに関する注意事項

---

この章では、パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーに適用される重要な情報について説明します。使用しているサーバーのパーツ番号を確認する方法については、2 ページの「パーツ番号および使用しているサーバーに適用される注意事項を確認する」を参照してください。

詳細は、次のセクションを参照してください。

- 24 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」
- 25 ページの「必須パッチ」
- 27 ページの「既知の問題」
- 36 ページの「ハードウェア RAID のサポート」

---

**注** – ハードウェア RAID をサポートするには、Solaris 10 1/06 OS に 121130-01 以降のパッチをインストールする必要があります。Solaris 10 6/06 以降の OS では、デフォルトでハードウェア RAID のサポートが有効になっています。36 ページの「ハードウェア RAID のサポート」を参照してください。

---

---

# サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

## 最新バージョン

次のバージョンのファームウェアおよびソフトウェアは、サーバーにプリインストールされています。

- Solaris 10 1/06 OS
- Java Enterprise Systems (Java ES) 2005Q4 ソフトウェア
- Sun システムファームウェア 6.1 (Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT 1.1 ソフトウェアを含む)
- SunVTS 6.1 ソフトウェア
- Sun Management Center 3.6 ソフトウェア

## 最小バージョン

使用しているサーバーにソフトウェアまたはファームウェアを再インストールする場合、パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーでサポートされる最小バージョンは次のとおりです。

- Solaris 10 3/05 HW2 オペレーティングシステム (Solaris 10 1/06 OS 推奨)
- Java™ Enterprise Systems (Java ES) 2005Q1 ソフトウェア
- Sun システムファームウェア 6.0 (Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT 1.0 ソフトウェアを含む)
- SunVTS 6.0 PS3 ソフトウェア
- Sun™ Management Center 3.6 ソフトウェア

## 必須パッチ

このセクションでは、パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの必須パッチについて説明します。これらのパッチをサーバーにインストールしたあとで、サーバーを配備してください。出荷時にプリインストールされている Solaris OS を使用するサーバー、および設置場所で Solaris OS をインストールしたサーバーに、これらのパッチをインストールしてください。

パッチは、<http://www.sun.com/sunsolve> から入手できます。

表 3-1 を参照して、使用しているサーバーに必要なパッチを確認してください。

表 3-1 パーツ番号 501-6843 のサーバーの必須パッチ

	Solaris 10 3/05 HW2 OS	Solaris 10 1/06 OS	Solaris 10 6/06 OS	Solaris 10 11/06 OS
一般的な機能	<ul style="list-style-type: none"><li>• 118822-23 以降</li><li>• 119578-22 以降</li><li>• 121236-01 以降</li><li>• 121265-01 以降</li><li>• 119981-05 以降</li><li>• 120824-03 以降</li><li>• 120849-02 以降</li><li>• 118918-09 以降</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 119578-22 以降</li><li>• 118833-24 以降</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 111833-24 以降</li></ul>	なし
ハードウェア RAID のサポート*	<ul style="list-style-type: none"><li>• 121130-01 (36 ページの「ハードウェア RAID のサポート」を参照)</li><li>• 119850-14 以降</li><li>• 122165-01 以降</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 121130-01 (36 ページの「ハードウェア RAID のサポート」を参照)</li><li>• 119850-14 以降</li><li>• 122165-01 以降</li></ul>		

\* この行に表示されるパッチは、このサーバーでハードウェア RAID を使用する場合にのみ必要です。

使用しているサーバーにオプションカードが追加されている場合は、それぞれのカードに関するマニュアルおよび README ファイルを参照して、追加のパッチをインストールする必要があるかどうかを確認してください。

プリインストールされているバージョンの Solaris OS を使用する場合でも、このサーバーに Solaris OS を再インストールする場合でも、最適な機能性を確保するために /etc/system ファイルを変更してください。6 ページの「/etc/system ファイルの必須エントリ」を参照してください。

---

注 – 購入先に問い合わせる前に、必須パッチがサーバーにインストールされていることを確認してください。これらのパッチのインストールに加えて、SunSolve Web サイトを定期的にチェックして、利用可能な新しいパッチがないかどうかを確認することをお勧めします。

---

## ▼ 起動ディスクにパッチを適用する

1. システムにパッチがインストールされているかどうかを確認します。  
たとえば、showrev コマンドを使用して、次のように入力してください。

```
# showrev -p | grep "Patch: 118822"
```

- 照会したパッチに関するパッチ情報が一覧表示され、ダッシュに続く数字 (下 2 桁) が必要なバージョンと一致しているか、またはそれより大きい場合は、使用しているシステムには適切なパッチがすでにインストールされているため、その他の処置は必要ありません。

たとえば、パッチ 118822-23 以降がインストールされている場合は、使用しているシステムにはこのパッチの必要なバージョンが適用されています。

- 照会したパッチに関するパッチ情報が表示されない場合、またはダッシュに続く数字が必要なバージョンよりも小さい場合は、手順 2 に進んでください。  
たとえば、パッチ 118822 のどのバージョンもインストールされていないか、ダッシュに続く数字が 22 以前のバージョンがインストールされている場合は、新しいパッチをダウンロードしてインストールする必要があります。

2. <http://www.sun.com/sunsolve> にアクセスして、パッチをダウンロードします。

SunSolve のパッチ検索ツールで、基本のパッチ ID 番号 (先頭の 6 桁) を指定してパッチの現在のリリースにアクセスしてください。

指定したパッチの README ファイルに記載されているインストール手順に従います。

# 既知の問題

このセクションでは、このリリースの Sun Fire T2000 サーバーに存在する既知の問題について説明します。

## 一般的な機能の問題

表 3-2 に、Sun Fire T2000 サーバーのこのリリースの時点で利用できない機能を示します。

表 3-2 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの機能に関する問題

機能	コメント
ハードウェア RAID	ハードウェア RAID は、次のパッチをインストールしたサーバーでのみサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 121130-01 以降 (Solaris 10 1/06 OS のみ)。Solaris 10 6/06 以降の OS では必要ありません。</li><li>• 119850-14 以降</li><li>• 122165-01 以降</li></ul> 36 ページの「ハードウェア RAID のサポート」を参照してください。
Java Enterprise System (Java ES) ソフトウェア—Network Security Services (NSS) および RSA キー	Java ES 2005Q1 ソフトウェアリリースの NSS 共有コンポーネントは、Sun Fire T2000 サーバーの UltraSPARC® T1 プロセッサ内のシングルスレッドの浮動小数点ユニットによって悪影響を受ける場合があります。このため、RSA キーの最初のネゴシエーション中に最適なパフォーマンスが実現されない可能性があります。使用しているアプリケーションが RSA ネゴシエーションに大きく依存している場合は、Java ES 2005Q4 および最新の推奨パッチのインストールを検討してください。このソフトウェアは、次の Web サイトからダウンロードして入手できます。 <a href="http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/">http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/</a>
Solaris™ 予測的自己修復 (PSH) 機能	Solaris PSH の実装は、このリリースの製品では完全には実現されません。メッセージ ID FMD-8000-0W の PSH メッセージが発生した場合は、次の Web サイトの説明を参照してください。 <a href="http://www.sun.com/msg/FMD-8000-0W">http://www.sun.com/msg/FMD-8000-0W</a>

表 3-2 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの機能に関する問題 (続き)

機能	コメント
Sun Explorer ユーティリティ	<p>このサーバーは、Sun™ Explorer 5.2 データ収集ユーティリティではサポートされますが、これより前のリリースのユーティリティではサポートされません。プリインストールされた Java ES パッケージから Sun™ Cluster または Sun Net Connect ソフトウェアをインストールすると、前のバージョンのユーティリティがシステムに自動的にインストールされます。Java ES ソフトウェアのいずれかをインストールしたあとに、次のように入力して、使用しているシステムに前のバージョンの Sun Explorer 製品がインストールされていないかどうかを確認してください。</p> <pre># pkginfo -l SUNWexplo</pre> <p>前のバージョンが存在する場合は、それをアンインストールして version 5.2 以降をインストールしてください。Sun Explorer 5.2 をダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。</p> <p><a href="http://www.sun.com/sunsolve">http://www.sun.com/sunsolve</a></p>
Sun <sup>SM</sup> Net Connect	<p>Java ES 2005Q1 リリースに含まれている Sun Net Connect ソフトウェアのバージョンは、Sun Fire T2000 サーバーを完全にサポートしているわけではありません。このバージョンの Sun Net Connect ソフトウェアを、使用している Sun Fire T2000 サーバーにインストールしないでください。使用しているシステムに誤ってこのバージョンをインストールした場合は、アンインストールしてください。Sun Fire T2000 サーバーでは、Sun Net Connect version 3.2.2 以降が必要です。このバージョンは、次の Web サイトからダウンロードできます。</p> <p><a href="http://www.sun.com/service/netconnect/">http://www.sun.com/service/netconnect/</a></p> <p>Sun Net Connect 3.2.2 ソフトウェアに関して確認されている既知の問題については、CR 6338365 を参照してください。</p>



## 特定の問題と回避方法

表 3-3 に、既知の問題とそれに割り当てられている変更要求 ID (CR ID) を示します。変更要求 ID は以前バグ ID と呼ばれていました。この表には、これらの問題に対して実行可能な回避方法も示します。

これらの CR の詳細は、SunSolve Web サイトを参照してください。

表 3-3 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題

CR ID	説明	回避方法
6214403*	SunVTS™ のユーザーインターフェースに netlbttest が表示されない。	SunVTS の構成ファイル (/opt/SUNWvts/lib/conf/netlbttest.conf) に、次の行を追加してください。 ipge ipge 1gbaset
6274126*	ページサイズが大きいと、変換格納バッファ (TSB) に古いエントリが作成される可能性がある。	/etc/system ファイルに、次の行を追加してください。 set segkmem_lpsize=0x400000 これによって、大きなページのカーネルヒープに使用されるページサイズが、256M バイトから 4M バイトに減らされます。6 ページの「/etc/system ファイルの必須エントリ」を参照してください。 注: この問題は、Solaris 10 1/06 OS リリースで解決されました。
6274641*	SunVTS 機能メモリーテストの pmentest と vmentest の両方を同時に実行すると、SunVTS cputest が失敗する場合があります。	SunVTS の cputest と SunVTS 機能メモリーテスト (pmentest および vmentest) を同時に実行しないでください。 注: このバグは、SunVTS 6.1 リリースで解決されました。
6285190	ALOM CMT の showplatform コマンドが、システムの状態を OpenBoot™ PROM (OBP) 状態と OS 動作状態のどちらであるか区別できない。	システムの状態を判断するために、showplatform コマンドを使用しないでください。
6287524*	POST が障害の発生した I/O デバイスを検出しても、その後の処理を行うシステムコントローラに障害情報が渡されない。	障害の発生した I/O デバイスが POST で検出された可能性がある場合は、購入先に問い合わせさせてサポートを受けてください。
6310384	サーバーにキーボードが取り付けられていない場合でも、SunVTS USB キーボードテスト (usbtest) が、キーボードが存在すると報告する。	usbtest を実行しないでください。
6312364	ALOM CMT の console コマンドを使用してホストにアクセスすると、コンソールの応答が遅くなる場合がある。	最適な応答性を確保するには、ホストが OS の起動を完了した直後にホストのネットワークインターフェースを介してホストにアクセスしてください。

表 3-3 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6314590	ALOM CMT の break および go コマンドを実行すると、システムがハングアップする場合があります。	コンソールがハングアップした場合は、システムをリセットしてください。
6314837*	bootmode reset_nvram コマンドを使用したあとで、システムコンソールに次の警告が表示される。 NVRAM contents invalid	OBP 変数を確認して、必要な設定を行なってください。
6315238	AC 電源を入れ直すと、次のメッセージが誤って表示される。 Preceding SC reset due to watchdog	このメッセージは無視してください。
6315592*	サーバーがスタンバイモードである間に実行された FRU 交換を、ALOM CMT が検出しない。	サーバーがスタンバイモードであるときに FRU (DIMM など) を交換したあとには、resetsc コマンドを実行してください。これによって、システムコントローラがリセットされ、交換した FRU が検出されません。
6316899*	SunVTS の dtlbttest がサポートされていないページサイズのテスト中に、次のエラーメッセージを返す。 Subtest skipped due to failure to allocate memory	このメッセージは無視してください。 注: このバグは、SunVTS 6.1 リリースで解決されました。
6317382	ok プロンプトで、認識できないコマンドまたは単語を入力すると、システムによって次のエラーが誤って返される。 ERROR: Last Trap また、サーバーがハングアップする場合もある。	この誤ったエラーメッセージは無視してください。サーバーがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバーをリセットしてください。
6318208	POST リセット後など、システムをリセットするたびに、次のメッセージが表示される場合があります。 Host system has shut down	このメッセージは無視してください。システムは問題なくリセットされ、OBP の ok プロンプトが表示されます。
6318226*	disablecomponent コマンドを使用して ttya ポートを使用不可にしようとしても、ポートが使用不可にならない。	ttya ポートを使用不可にしないでください。
6318235*	PCI-X スロットを個別に使用不可にできない。	PCIX0 または PCIX1 を使用不可にする必要がある場合は、必ず両方のスロットを使用不可にしてください。
6323510*	enablecomponent および disablecomponent コマンドを使用して、PCIEa または PCIEb コンポーネントを使用可能または使用不可にできない。	現時点では、この問題に関する回避方法はありません。

表 3-3 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6324014*	diag_trigger が all-resets に設定されていると、POST が実行されない。	POST を確実に実行するには、setkeyswitch コマンドを使用して POST の実行方法を制御します。diag_trigger に all-resets を設定しないでください。
6325271	コンソール履歴の boot ログと run ログが同じになる。	現時点では、この問題に関する回避方法はありませ
6325313*	if_network を false に設定してネットワークを使用不可にすると、それ以降のシステムコンソールのリセット時に VxDiag エラーが返される。	現時点では、この問題に関する回避方法はありませ
6327331*	ASR の disablecomponent コマンドを使用しても、pcix0 スロットが使用不可にならない。	PCIX 0 スロットを使用不可にしようとしないでください。CR 6318235* も参照してください。 注: SAS ディスクコントローラは、PCIX 0 スロットに取り付けられます。
6331169	OBP および Solaris OS のバナーに、Sun Fire T200 という製品名が表示される。	正しい製品名は Sun Fire T2000 と読み替えてください。この問題はシステムには影響ありません。
6333003*	ALOM CMT パスワードの復旧処理中に、システムコントローラカードで多数の書き込み活動が発生する。この活動によってタイムアウトが発生し、次に示す誤ったシステムコントローラメッセージが表示される場合がある。 SC Alert: SCC has been removed. SC Alert: SCC has been inserted.	これらの誤ったエラーメッセージは無視してください。
6334098*	clearasrdb または enablecomponent の直後に ALOM CMT の resetsc を実行すると、次のエラーが返される場合がある。 No valid MEMORY configuration	clearasrdb または enablecomponent コマンドの完了後に、数秒経過してから resetsc を実行してください。
6336040	障害が発生した DIMM が asr データベースからクリアされたあとで、ALOM CMT が適切に再起動しない場合があり、次のエラーメッセージが返される。 No valid MEMORY configuration	clearasrdb コマンドの実行後に、10 秒経過してから resetsc コマンドを実行してください。DIMM に関連する障害をクリアする方法については、『Sun Fire T2000 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。
6336420*	SunVTS テストが停止されたとき、SunVTS の cryptotest がハングアップする場合がある。	SunVTS の cryptotest 処理を手動で終了してから、再度 SunVTS テストを実行してください。 注: このバグは、SunVTS 6.1 リリースで解決されました。

表 3-3 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6338365	Sun Net Connect 3.2.2 ソフトウェアが、Sun Fire T2000 サーバーでの環境警告を監視しない。	環境エラーが発生したことを示す通知を受け取るには、ALOM CMT の <code>mgt_mailalert</code> 機能を使用して、イベントの発生時に ALOM CMT から電子メールが送信されるように設定してください。 サーバーの環境状態が正常であるかどうかを確認するには、ALOM CMT にログオンして <code>showfaults</code> コマンドを実行してください。 サーバーで発生したすべてのイベントの履歴を参照するには、ALOM CMT にログオンして <code>showlogs</code> コマンドを実行してください。
6338962	<code>sync</code> コマンドを使用したとき、システムがパニック状態になりハングアップする場合があります。	サーバーがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバーをリセットしてください。
6341045	サーバーがトラップハンドラを実行している間に CPU またはメモリーに障害が発生すると、システムは CPU またはメモリーの障害メッセージを返す代わりに、誤ったトラップを使用してパニック状態になる場合があります。このような場合、メモリーの消し込みは実行されません。	サーバーをリセットし、 <code>showfaults</code> コマンドを使用して、障害の可能性がないかサーバーを確認してください。
6343294	Solaris PSH エラーが検出され報告されたとき、正しいメッセージに加えて、次の誤ったメッセージが報告される場合があります。 <code>msg = warning: bad proto frame implies corrupt/lost msg(s)</code>	この誤ったメッセージは無視してください。
6342192	サーバーが、ALOM CMT シリアル管理ポートでの着呼に応答しない。	モデムを ALOM CMT シリアルポートに接続しないでください。
6344537*	ASR の <code>disablecomponent</code> コマンドを使用して CPU またはメモリーコンポーネントを使用不可にすると、POST が失敗する。	ASR の <code>disablecomponent</code> コマンドを実行しないでください。
6344888	システムで、次のメッセージ ID が付いた、誤った障害メッセージが生成される場合があります。 SUN4-8000-ER SUN4-8000-0Y SUN4-8000-75 SUN4-8000-D4	<code>/etc/system</code> ファイルに次の行が存在することを確認してください。 <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x1</code> 6 ページの「 <code>/etc/system</code> ファイルの必須エントリ」を参照してください。

表 3-3 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6346813*	修正可能なメモリーエラーがわずかである場合、POST が正しい DIMM を特定しない場合がある。	報告された障害のある DIMM を交換してもメモリーエラーが解消されない場合は、次の DIMM の対のもう一方の DIMM を交換してください。 J1101 - J1201 J1301 - J1401 J2101 - J2201 J2301 - J2401
6347456	ECC エラー監視 (errmon) オプションが使用可能に設定されていると、SunVTS メモリーテストで、まれに、次のような警告メッセージがログに記録される場合がある。  WARNING: software error encountered while processing /ar/fm/fmd/errlog Additional-Information: end-offile reached	errmon オプションを使用可能にしないでください。errmon オプションは、デフォルトで使用不可になっています。
6353459	電源装置 0 (PS0) がシャーシに取り付けられていないと、サーバーに電源が入らない場合がある。コンソールに、次のエラーが表示される。 No CPU Signon	PS0 は取り外さないでください。PS0 に障害が発生した場合は、交換の準備が整うまで、取り付けたままにしておいてください。PS0 を交換する場合は、オペレーティングシステムを停止し、サーバーの電源を切断します。この問題は、PS1 では発生しません。したがって、PS1 はホットスワップが可能です。
6356620	ディスクをシャーシから取り外してシステムを再起動すると、ハードウェア RAID ボリュームの状態を提示する raidctl コマンドが、取り外されたディスクのターゲット ID を誤って報告する場合がある。	ディスクを再度取り付けると、raidctl コマンドが正しいターゲット ID を報告するようになります。
6362690	dtlbttest の実行中に SunVTS テストが停止されると、テストが失敗して次のエラーを表示する場合がある。 No CPUs to test	SunVTS 6.1 PS1 にアップグレードしてください。SunVTS のこのリリースは、次から入手できます。 <a href="http://www.sun.com/oem/products/vts">http://www.sun.com/oem/products/vts</a>
6368136	ALOM の showlogs -p p コマンドが多数のデータを表示して、ALOM CLI の動作を遅くする場合がある。	永続ログを表示するには、このコマンドではなく、次のコマンドを使用してください。 showlogs -e x ここで、x には、表示する最新ログエントリの行数を指定します。
6368944	ok プロンプトで、114 文字以下のテキストしか入力できない。	ok プロンプトでは、114 文字を超えるテキストを入力しないでください。

表 3-3 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6369961	障害が修復されたあとも、起動時に、システム障害メッセージおよび ALOM CMT アラートが引き続き生成される。	この問題は、119578-22 以降の必須パッチをインストールすると解決されます。25 ページの「必須パッチ」を参照してください。 このパッチがインストールされていない場合は、『Sun Fire T2000 サーバーサービスマニュアル』に記載されている手順を実行して障害メッセージをクリアできます。
6380987	シャーシの背面にあるアースピンにアース線を接続すると、このアース接続を外さないかぎり背面の送風機を交換できなくなる。	背面の送風機を交換する必要があるため、アース線が接続されている場合には、アース線を外して送風機を取り扱ってください。
6381064	Sun Type-7 キーボードが正面の USB ポートのいずれかに接続されていると、システムが起動できない。	Type-7 キーボードを、正面の USB ポートに接続しないでください。代わりに、別の種類のキーボードを使用するか、または背面の USB ポートを使用してください。
6383666	USB サポートは、Entire Distribution +OEM Solaris クラスタをインストールした場合にのみ提供される。	オンボード USB インタフェースの使用を予定している場合は、Solaris OS をインストールする際に、必ず Entire Distribution +OEM (SUNWCXall) クラスタを選択してください。
6391218	probe-scsi コマンドが、オンボードディスクコントローラに接続されたデバイスをプローブしない。	このコマンドではなく、probe-scsi-all コマンドを使用してください。
6400117	DVD ドライブが、x24 の速度での書き込み操作を実行しない。	cdwr コマンドを使用して DVD ドライブに書き込みを行う際、次のコマンドは使用しないでください。 cdwr -p24 代わりに、次のいずれかの速度を使用してください。 • cdwr -p16 • cdwr -p10
6405137	システムのホスト電源の投入またはリセットを行なった際に、ときどき、次のメッセージを表示してシステムの電源が切断される。 HV Abort: JBI Error (22) - PowerDown	このメッセージは無視してください。サーバーがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバーをリセットしてください。

表 3-3 パーツ番号 501-6843 の Sun Fire T2000 サーバーの特定の問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6408619	ネットワーク上の Linux の起動用 TFTP サーバーからサーバーを起動できない。	Solaris OS の起動用 TFTP サーバーを使用してください。
6410532	ALOM の disablecomponent コマンドを使用しても、Ethernet ポートが使用不可にならない。	disablecomponent コマンドを使用して、Ethernet ポートを使用不可にしないでください。
なし	X オプションおよび交換可能なハードドライブが、電子的なディスクラベルを持たない場合がある。	サーバーでハードドライブの交換または追加を行う予定がある場合は、そのドライブが電子的なディスクラベルを持たない場合があるため、Format ユーティリティを実行してドライブにラベルを付けます。ドライブにラベルを付ける手順については、『Labeling Unlabeled Hard Drives』(Part No. 819-3805) というタイトルのマニュアルに記載されています。このマニュアルは、Sun Fire T2000 サーバーのマニュアルとともに <a href="http://www.sun.com/documentation">http://www.sun.com/documentation</a> に掲載されています。

\* この問題は、最新バージョンの OS、システムファームウェア、および SunVTS で動作しているシステムには、該当しません。24 ページの「最新バージョン」を参照してください。

---

## ハードウェア RAID のサポート

RAID 技術は、複数の物理ディスクで構成される論理ボリュームの構築を可能にし、データの冗長性の提供またはパフォーマンスの向上、あるいはその両方を実現します。Sun Fire T2000 サーバーのオンボードディスクコントローラは、次の RAID 構成をサポートします。

- 統合ストライプ (IS) ボリューム (RAID 0)
- 統合ミラー (IM) ボリューム (RAID 1)

RAID ボリュームを作成する前に、サーバーに次のパッチをインストールしてください。

- 121130-01 以降 (Solaris 10 1/06 OS のみ) – 更新されたハードウェア RAID サポートを提供します。このパッチは、Solaris 10 6/06 以降の OS では必要ありません。
- 119850-14 以降 – mpt デバイスドライバおよび raidctl ユーティリティの更新を提供します。
- 122165-01 以降 – PCI-X SAS ディスクコントローラカードの、更新された FCODE を提供します。

サーバーにハードウェア RAID を実装する方法については、『Sun Fire T2000 サーバー管理マニュアル』(Part No. 819-4544) を参照してください。このマニュアルは、ほかの Sun Fire T2000 マニュアルとともに、<http://www.sun.com/documentation> で入手できます。